

# 寅さん歩 その 26

## 東京の主要道路の起点～終点

### 丸八通り－1



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」、「葛西橋通り」、「中野通り」、「平和橋通り」、「大久保通り」、「蔵前橋通り」、「道灌山通り」、「川の手通り」、「自由通り」と歩いてきました。

今回は「丸八通り」を歩きます。丸八通りは墨田区立花の明治通りの小村井交差点を起点に、江東区南砂町駅入口交差点に至る延長約5kmの道です。

写真右上は丸八通りの道路名標識（都道476号線）です。道路名は小名木川にかかる丸太橋からつけられましたが、明治時代に「丸八」という名のお線香屋の名をとったという説があります。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

### [小村井交差点]

墨田区立花 最寄駅 東武亀戸線 小村井駅

総武線 亀戸駅から東武亀戸線に乗り換え、小村井（おむらい）駅（写真下左）の明治通りの小村井交差点（写真下右）から直進方向が丸八通りです。



三ノ輪・東向島方面から来た  
明治通り（都道 306 号線）は小村  
井交差点で右折、総武線 亀戸駅  
方面へ向かいます。  
丸八通り（都道 476 号線）は小  
村井交差点を起点として南砂方面  
へ向かいます。

丸八通りは東武亀戸線に沿って北十間川を越える歩道橋（写真下左）を上がります。写真下右は北十間川で、遠くに旧中川にかかる江東新橋が見えます。



**[新小原橋交差点]** 江東区亀戸八丁目

最寄駅 東武亀戸線 亀戸水神駅



歩道橋を下りると、新小原橋交差点（写真左）で蔵前橋通り（都道315号線）と交差します。蔵前橋通りは右側の亀戸天神方面から来て江東新橋を渡り平井方面へ行きます。丸八通りは直進です。

## [亀戸中央公園] 江東区亀戸八丁目

最寄駅 東武亀戸線 亀戸水神駅

左側に亀戸中央公園（写真下左右）があります。東京都は日立製作所亀戸工場の跡地を、1980年（昭和55年）に都立公園として整備・開園しました。A地区（芝生広場）・B地区（多目的広場）・C地区（運動広場）に分かれた憩いの場・スポーツを楽しむ所です。園内にはJR総武線が走っています。



## [亀戸七丁目交差点] 江東区亀戸七丁目

最寄駅 JR総武線 亀戸駅

亀戸七丁目交差点（写真下右）で京葉道路（国道14号線）と交差します。左へ行くと船橋方面、右へ行くと浅草橋方面です。丸八通りは直進します。





### [堅川大橋] 江東区亀戸六丁目

最寄駅 JR総武線、亀戸駅

堅川大橋（写真下左）がありました。堅川は1659年（万治2年）開削の旧中川と大川（隅田川）を東西に結ぶ運河です。江戸城に向かって縦に流れていることからその名称となりました。開削後すぐ隅田川から順に一ツ橋～六ツ橋が架けられ、各橋が渡る道は三ツ目通り、四ツ目通りと名が付き、二ツ橋は清澄通り、五ツ橋は明治通りの名称が付けました。堅川大橋の上は首都高速小松川線が走っています。堅川は整備されて大橋の名にしてはちいさな川（写真下右）でした。



### [大島六丁目交差点] 江東区大島六丁目

最寄駅 都営地下鉄新宿線 大島駅

大島六丁目交差点（写真下右）で新大橋通り（都道 50 号線）と交差します。江東区の大島は“おおしま”と呼びます。東京都には伊豆大島（おおしま）があるからだと推察しました。左へ行くと船堀方面、右へ行くと新大橋方面です。丸八通りは直進します。



## [大島稲荷神社] 江東区大島五丁目

最寄駅 都営地下鉄新宿線 大島駅

小名木川に架かる丸八橋の歩道橋に上がると左側に大島稲荷神社（写真下左）が見えたので、下りてお参りしました。大島稲荷神社は慶安年間（1648～1651年）に小名木川近くの海辺がたびたび津波に見舞われ、耕地が荒廃したので伏見稲荷大社の分霊を奉遷し産土神として奉ったことに始まるとのことです。元禄 5 年 1692 年松尾芭蕉 50 歳の時に深川から小名木川を下って門人を訪ねる途中で立ち寄り参拝し、境内から川の流れを眺めながら一句を詠んでいます。写真下右は入口にある句碑「秋に添て 行くはや末は 小松川」です。





今回はここまでとします。

## [バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩379 令和3年10月から掲載済です。

今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。皆様の旅の進度のご連絡をお待ちしています。

2023年8月8日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年10月27日島田宿（現在の静岡県島田市）（江戸日本橋から204km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。



写真左は「嶋田 大井川駿岸」です。「箱根八里は馬でも越すが 越すに越されぬ大井川」と詠まれた様に広い川幅と豊富な水量で東海道の難所でした。大名行列が渡河する様子が上方からの視点で描かれています。

東海道沿いに現在のJR東海道本線が通っています。島田駅を過ぎると大井川で川越遺跡が残っています。島田の名物は清水屋の小饅頭（写真下左）です。大名茶人として名高い松江藩主 松平不昧公が参勤交代の途中、この酒まんじゅうに目を留め、食べやすいよう、もっと小さくと助言し、現在の大きさになり、皮に練り込まれたどぶろくの香りが風雅とのこと。元祖清水屋は創業300年の老舗です。

お茶も静岡の名産品で少し丘を登ると牧之原大茶園（写真下右）が開けます。



毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝